

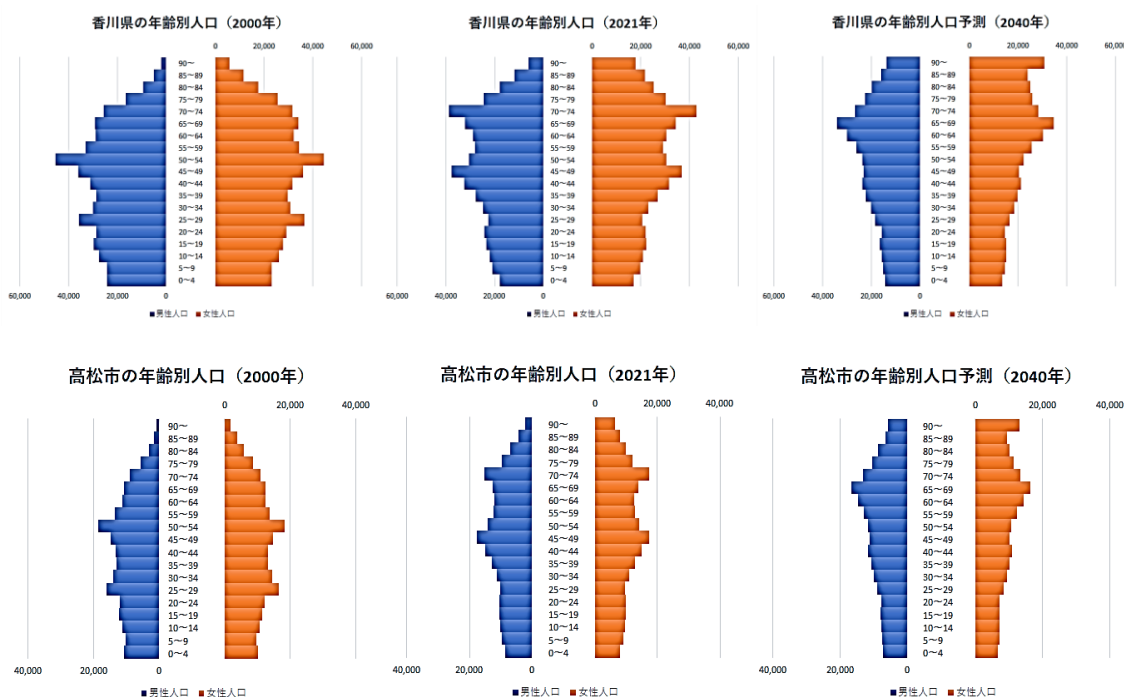
小さく始めるまちづくり

香川県立高松高等学校 1年 安川結彩

1. 高松市の人口推移と行われている活動

郷土香川を元気にするために求められることについて、私はまず自分が住んでいる高松市について考えてみた。

香川県と高松市の2000年→2021年→2040年の人口ピラミッドの変化を見てみると現在の20年間は変化が少ない。しかしどちらも、これからの20年間、高齢化が顕著である。少子化も高齢化ほどではないが、少しずつ進んでいる。



だが私は少子化が進んでいることを実感できない。例えば龍雲中学校の生徒数は2007年から右肩上がりが増え続けている。このことからわかるように、高松市南部エリア（多肥、仏生山、太田、林等）では人口が増えている。

これは、第6次高松市総合計画の基本構想5「多核連携型コンパクト・エコシティの推進」の影響が出ているのではないだろうか。この事業構想は、都市機能を集積することによって、高松市全域に散らばっている市民を、高松市の中心に集め、コンパクトな集約型都市を構築することを目指している。また、人と環境に優しい環境共生都市の実現も目標としている。

コンパクト・シティの利点はやはりサービスが行き届きやすいことだ。公共施設へ向かう交通が整備しやすくなるため、交通の便が良くなる。今まで以上に便利な社会になるだろう。確かに活性化に繋がると思う。ただ、貧困や複雑なシステムなどが原因で利用できない人が

いたらどうだろうか。以前、コロナウイルスのワクチンの手続きが複雑でできない高齢者が多い、というニュースを聞いたことがある。このような人が高松市で増えたら、その人たちは高松市に住んでいて良かったと思えるのだろうか。人が集まって、便利なだけでは、高松を元気にするということには繋がらない。

私は香川・高松を元気にするとは、つまりそこに住んでいる人々が幸せに笑顔で暮らせるようにすることだと思う。そのためには高松市よりも小さい地域単位での活動を増やすべきだと私は思う。

2. 地域単位の活動について

私が提案する地域単位の活動とは、コミュニティセンターの活動を増やすことである。これはコンパクト・エコシティ同様、第6次高松市総合計画、基本構想6で推奨されている。

コミュニティセンターは少し前まで公民館と呼ばれていた。かつて公民館は生涯学習の拠点として利用されていた。生涯学習とは、人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、生涯を通じて行う活動のことである。これは個人が笑顔になるための活動である。そして地域活動の拠点は自治会であった。自治会はその地域に住んでいる人全員が笑顔になるような行事を企画運営していた。しかし、年々加入率が減少し、自治会の存続が課題となっている地域もある。香川県の自治会の加入率は、平成30年には57%とほぼ半数になってしまっている。

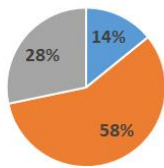
そんな公民館と自治会の活動をまとめて担うようになったのが地域コミュニティ協議会である。その活動拠点となるのがコミュニティセンターだ。だから個人に対しても地域に対しても行動を起こすことができる。コミュニティセンターに改定された時、大きく変わったのは、「地域の人」という言葉の定義である。「そこに住んでいる人々」から、住んでいなくても仕事で利用したりその地域の学校に通っていたり、「地域に関わる人々すべて」を指すようになった。

コミュニティ協議会はまちづくりの主体として、市の協働パートナーであると高松市自治基本条例で定められている。市から地域まちづくり交付金などの財政支援を受けており、以前よりも活動しやすくなった。

コミュニティ協議会の利点は、地域に合わせた活動ができることである。地域に合わせた活動とは、例えば年齢層や環境に合わせた活動である。活発な活動により地域の個性や自主性を伸ばすことができる。現在の香川県は低密度であり、地域によって人口はばらばらである。そのためコンパクト・エコシティが推奨されるわけだが、それを逆手に取り地域によって年齢層が異なることを活かすのだ。

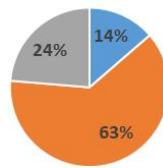
下のグラフは高松市の各地域に居住する年代ごとの割合をコミュニティ協議会ごとに算出したものである。大野地区と十河地区は、0～14歳の割合が他の地域に比べて多く、そして、塩江地区と庵治地区の65歳以上の割合は、飛び抜けて多い。

大野校区コミュニティ協議会



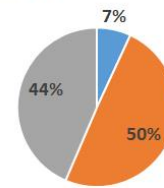
■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65歳~

十河校区コミュニティ協議会



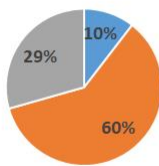
■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65歳~

庵治地区コミュニティ協議会



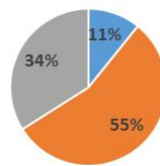
■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65歳~

屋島地区コミュニティ協議会



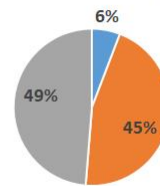
■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65歳~

香南地区コミュニティ協議会



■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65歳~

塩江地区コミュニティ協議会



■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65歳~

0~14歳の子どもの多い地域で行われている活動として、立哨活動が挙げられる。立哨活動は高齢者が担当してくれる地域もあり、子どもの見守り活動は高齢者も巻き込めるといふ相乗効果がある。また、1で述べたように高松市南部エリアの人口は増加している傾向にあり、昨年香川県への移住者は過去最多を更新した。その中でも20代・30代の子育て世代が多いという。少子化が課題となっているが、子どもの数がさらに増える地域もあるだろう。そんな将来のために、子どもが活躍できる場をもっと増やしていくべきだ。

例えば、倉庫や公共施設に子どもたちが芸術士と一緒に絵を描くというのはどうだろうか。すでに芸術士と子どもたちの交流は保育園などで行われているため実行しやすいと思う。瀬戸内国際芸術祭で、アート県として注目を集める香川県らしくなるのではないだろうか。また明るくおしゃれな街になることは間違いない。そんな施設に行ったり横を歩いたりすると笑顔になれるはずだ。考えただけでワクワクする。すると、そこを訪れた若者やその活動の参加者がSNSにアップするだろう。インスタ映えは間違いない。そのSNSを見た人たちは、活動に参加したくなるし行きたくなる。SNSの拡散というものは凄まじい。瞬く間にこの活動のことを多くの人に知ってもらえる。

高齢者向けのイベントをするにしても若者向けのイベントをするにしても、大切なのは活動を企画運営する人たちである。最近コミュニティの高齢化が課題となっており、活動の柱を担ってくれる人を増やしていく必要がある。私はその企画運営に高校生が参画してはどうかと考えている。

高校生が活動の企画から、コミュニティ協議会の会議に参加し、運営の係まで担う。高校生は戦力にもなるし、アイデア源にもなる。しかも高校生にとって、貴重な社会経験となる。最初は個人で参加し、それが「学校×地域」の取り組みにつながるとさらに良い。その高校が所在する地域の会議に、生徒会などが代表で参加する。それを全校生に伝え、イベント当日には学年や部活動・クラス単位で運営側の戦力として参加する。その活動を続けていくこ

とによって、将来地域に関わりたいと思う高校生や、活動する姿を見て自分もやってみたいと思ってくれる人が増えるかもしれない。そうすれば、コミュニティの高齢化の改善や地域コミュニティの活性化にも繋がる。

高校生と地域の人が企画のプロセスを共有する。高校生がきっかけとなって、多くの人がコミュニティに興味を持つ。これまで関わりのなかった団体が繋がっていく。繋がりが増えることでその地域に住む人だけでない、新しいコミュニティ「共同体」ができる。これは「地域の人」という定義が「関わりのある人すべて」だからこそできることである。

3. まとめ

地域の活動が増える。居住者という枠を越えた「共同体」ができる。「共同体」内での繋がりが市を越えること、県を越えることだってあるだろう。

小さなコミュニティのみんなを笑顔にする活動が、市や県まで広がった時、全世代が笑顔になる香川県になるだろう。

香川県を元気にするためにはまずは小さな地域単位の活動から始めていくべきだ。

【参考資料】

- ・国勢調査(総務省)による 2000 年の香川県の性別年齢階層別の人口のデータ(実績値)
- ・住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)による 2021 年 1 月 1 日時点の香川県の性別別年齢階層別の人口
- ・将来推計人口(厚生労働省社人研)による 2040 年の香川県の性別年齢階層別の人口のデータ(予測値)
- ・国勢調査(総務省)による 2000 年の高松市の性別年齢階層別の人口のデータ
- ・住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)による 2021 年 1 月 1 日時点の高松市の性別別年齢階層別の人口
- ・将来推計人口(厚生労働省社人研)による 2040 年の高松市の性別年齢階層別の人口のデータ(予測値)
- ・高松市ホームページ「第 6 次高松市総合計画」

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/smph/kurashi/shinotorikumi/keikaku/sogo/6thsogo/index.html>

- ・高松市ホームページ「地域コミュニティ協議会」

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/smph/kurashi/kurashi/community/chiiki/index.html>

- ・高松市ホームページ「登録人口 (令和 3 年 8 月 1 日現在)」

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/tokei/jinko/toroku/r03/R030801.html>

- ・学校教育情報サイト「ガッコム」

<https://www.gacom.jp/schools-34549/students.html>

- ・ 魅力ある自治会を目指して

http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/community/jichikai/index.files/jidhikai_saisyu.pdf

- ・ メーテレ東海地方のニュース

<https://www.nagoyatv.com/news/?id=006154>

- ・ 香川県ホームページ「令和2年度の移住者数・移住相談件数がまとまりました」

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/chiiki/iju/wczcdr200601170801.html>